

令和4年5月21日  
北関東フォーラム  
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム  
令和4年度 第5回

おはようございます。

最初に、村井幹事が「知足」最新号で書かれた疑問にお答えしたいと思います。「陽明学入門しました」という文章の中で、「明治維新は陽明学によって成った、などと思ってしまいたいところがあります。しかし『陽明学のすすめ』には特別そのような記述は見当たらず、根本的には大きな影響力は無かったのか、今後も学んでいきたい」とありました。

本の中には意識的に書かないようにしていましたが、講話の中では時々話をしています。村井さんの疑問の通り、私は、明治維新は陽明学の影響によって成立をしていると思っています。

陽明学と朱子学は、論語いわゆる儒学を学ぶ上で入り口です。陽明学は行動を重視し、朱子学は座学を重視するという、入り方に違いがあるだけです。陽明学は先ず行動が出ます。明治維新は佐藤一斎の弟子、孫弟子、それから直接教わってはいないけれども書物によって学んだ弟子、そういった弟子たちが敵味方に分かれて争い、最終的に官軍が勝利し明治維新を成し遂げ明治政府を樹立したという流れです。私は、陽明学がなかったならそういう方向にはいかなかったと思っています。

明治維新においては西郷隆盛がずば抜けた重みをもっています。西郷隆盛の存在なくして明治維新は成立し得なかったし、尚且つ、その後の大久保利通の考え方によって維新政府の骨格が出来たといわれます。

では、西郷隆盛はどこで陽明学を学んだのか。最初に陽明学を学んだのは、地元の師匠からです。一番深い所は、佐藤一斎の『言志四録』をしっかりと受け止めて、あとは実践を続けていったというのが基本的な所です。春日潜庵を陽明学の大家と認め、自分の弟子を潜庵の所に入門させたという事実もあります。西郷隆盛は様々な学問を学んだけれども、根っこの部分はやはり陽明学だろうと考えています。

ちなみに陽明学を学んだ方は、陽明学だけと言われる事を比較的嫌厭しています。例えば、平成という元号を提案した安岡正篤先生は、新聞等で陽明学者として紹介される事が多かったのですが、御自分で陽明学者とは言われなかったなと感じています。お弟子さん達は、安岡先生は陽明学で学んでいるけれども陽明学にとどまらない、という考えを強烈

に持っています。似たような話は中江藤樹にもあります。藤樹の地元に行きますと、中江藤樹は「日本陽明学の祖」と言われるが陽明学だけではない。「藤樹学」と言って貰いたい・・・と、特に藤樹について学んでおられる方々は言われます。逆に、陽明学者と自認しているのは三島中洲です。また、河井継之助も陽明学一辺倒でずっと進んで、自分でも陽明学ということを明確に打ち出しています。つまり、陽明学者や陽明学徒という言い方は、後世の人がつけている場合が多いと思っています。陽明学者と自認している人物は少ないと思っています。いわんや、王陽明は「陽明学の祖」という位置づけになっていますが、御本人は陽明学者とは言っていません。

ということで、私は、明治維新は陽明学によって成ったということが言えると思っています。ただ、意識的に本には書きませんでした。学者の先生方が本を書く時は、今までどんな先生方がどういう主張をしてきたかを全部踏まえた上で新しい学説を出す、という習癖があると思って下さい。私が教えて戴いた石川梅次郎先生は、「本物の学者は難しい事を優しく言い、似非学者は簡単なことを難しく言う」と言っておられました。その言葉が頭にこびりついているので、私は出来る限り優しく表現しようと思っています。ただその中に、色々な本を読んだり調べた学説を簡単にさりげなく紹介したいと思って取り込んでいます。

もう御一方ご紹介します。上毛新聞（4月24日）の「上毛俳壇—中里麦外選」に塚越参事の俳句が入選し掲載されていました。「思い出が 桜吹雪と せせらぎに」という句です。やはり中斎塾フォーラムの方のお名前を見ると嬉しくなりますね。

ちなみに、中里麦外先生は私の先輩です。中里先生からお聞きした話でとても印象深いのは、夢の中に芭蕉や一茶が出て来て、俳論を交わしたり取っ組み合いをするのだそうです。また、先生が俳書展を開く時には1週間くらい大学を休んで、最初の4、5日はひたすら墨を刷り続ける。そして手が震えて筆がしっかり握れなくなったところで、ようやく書にするのだそうです。なぜそうするのかお聞きしますと、身についた書道の型（癖）が身体から落ちて、赤ん坊の手で筆が持てる。それで必死になって身体全体を使って書を書くのだと言っておられました。やはり一芸に秀でる方は、どこか変わっていると感じました。

### 命を知り・礼を知り・言を知る

では、論語に参ります。今日は論語の最終章、堯曰篇第三です。

御存知のように論語は、孔子が何を言ったか、何を行ったかという孔子の言行録です。この句を論語の一番最後に持ってきたのは、意味があることだと思っています。何故この

三句が最後に来たのか考えながら読んで下さい。

【三】 子曰く、命を知らざれば、以て君子為ること無きなり。礼を知らざれば、以て立つこと無きなり。言を知らざれば、以て人を知ること無きなり。

時事評論を入れて解説致します。

先日、大野参与が主催されている日中一帶一路促進会の講演会に行つて来ました。そこでお話をされた方は中国人の大学の先生で、中国人の立場から習近平は今いかなることを考え、いかなる事をしているかという話をされました。それから防衛省出身の方が、ロシア・ウクライナ戦争について日本の立場から話をされました。同じくロシア・ウクライナ戦争について、国際政治経済学者の方が話をされました。そこでお聞きした新しい話を踏まえて申し上げます。

子曰く、命を知らざれば、以て君子為ること無きなり・・・孔子が言うには、天命を知らない人間はその国を治めることは出来ない。

命とは天運（天が与えた運命）のことです。人力では如何ともし難いもの、それを運命と捉えます。顔淵篇に「死生命あり。富貴天あり」とあります。

君子は、日本で言えば天皇陛下です。その国を代表する人間、中国では習近平主席、ロシアではプーチン大統領、日本の内閣総理大臣も天皇陛下とは違う形で日本を代表しています。要はその国を統べるポストに立つ人間と捉えればよいでしょう。

習近平で考えます。今お話した中国の学者は、論語のことを知るか知らずか、「天命が習近平に下っているから、そのポストにある」とは一言も言いませんでした。あとのお二人もプーチン大統領に関して色々と批判をしていましたから、天命を知っているとは言わないと捉えました。したがって、プーチンは大統領のポストに居てはならない人物であると解釈します。同じく習近平も、国家主席というポストに居てはならない人物であると解釈します。

礼を知らざれば、以て立つこと無きなり・・・人が守るべき規範を知らなければ、そのポストについてはならない。

礼とは人が守るべき全ての規範です。人の道と捉えても良いが、精神的なものばかりになってしまいがちなので、人間がその時代その時代で考えたルールと思って戴ければよい

でしょう。

では、習近平は礼（ルール）を知っているかという、自分の好きなようにルールを変えています。従来のルールに従えば本人はとっくに辞めなければならないところを、まだまだポストに居続けるためにルールを変えてしまったわけです。更に、もう一度ルールを変えようとしています。ですから、そういうことをする人物はポストに就いてはならない、と解釈します。

プーチンは最初からルールを変えています。大統領になったり、首相になったり、また大統領になって、今は分が悪くなってきたから子飼いを大統領に就けて自分は議長として院政を敷こうとしているのではないのでしょうか。

権力を握ると、ルールそのものを変えてしまうわけです。国家として見た場合、ロシアも中国も氣の毒だというように見えます。

ちなみに中国では、新たに王朝が立つ時は、この人物に位を譲ろうと禅譲していくのが本来あるべき姿ですが、国家国民のためにならない人物が君主にある時には、天命が自分に下ったということで革命を起こして次の王朝を作る。その繰り返しで中国は成り立って来ていたし、現在もそうです。ずっと同じ血筋が伝わるどころか、王朝を滅ぼすと前の王朝の血筋を全員殺してしまうのですから、血塗られた歴史であると私は思っています。

ロシアの場合もソ連邦が崩壊して比較的円満にロシアに変わり、ソ連邦に所属していた国々がそれぞれ独立したわけです。そういう見方をすると、ヨーロッパも血塗られた歴史を持っていると思います。

日本はどうかというと、ご存知の通り天皇陛下の血筋がずっと続いています。各国の要人が日本に来られた時、天皇陛下と面会されて、畏敬の念に打たれて頭を下げるという様子が報道されます。それだけ血筋が続いているというのは、他の国々から見ると驚き以外の何物でもない、自然と頭が下がる存在であるわけです。それが日本の日本たる所以だと思います。私は国内を旅行するならどこが良いかと聞かれるたびに、日本人ならぜひ伊勢神宮や出雲大社に言って下さいと答えています。伊勢神宮と出雲大社は、日本の日本たる所以を感じさせてくれる貴重な場所だと思っていますので、未だ行かれていない方は是非お勧め致します。

**言を知らざれば、以て人を知ること無きなり・・・人の話を聞いて、如何なる意味か分からなければ、その人物を理解することができない。**

君主たるものは、人の話を聞いてその気持ちが分からないようではいけないということ

ですが、議論をした場合にはその議論がどういう内容か、本質をつくものは何か、という部分が込められていると思っています。人物を理解するには言行一致かどうかポイントであるという事です。論語為政篇にも「子曰く、其の為す所を視、其の由る所を觀、其の安んずる所を察すれば、人焉んぞ廋さんや、人焉んぞ廋さんや」とあります。ご存知のように渋澤栄一は、これをもとに人物を見抜く方法として視・觀・察の三つの方法で観察しなさいと説いています。

本日の論語は、命を知り・礼を知り・言を知れば人物として合格であると捉えましょう。

命・・・自分自身に翻って、自分がこの世に生まれて来たことの意味・意義・使命を感じ取れば素晴らしい。自分は何故この世に生まれて来たか、この世で何をするために生まれて来たかが腹落ちしているかどうか、これを自分自身に問うとよいでしょう。

礼・・・自分は世の中のルール（規範）を知っているかどうかを考える必要があります。ただ、ルールということで申しますと、日本の国は政治家が法律を作り、官僚はそれを国民に徹底して分かるように知らしめる義務があります。しかし、その努力をしていないと思っています。そしてルールを知らない奴が悪いとばかり、違反となるわけです。前回の論語に「教えずして殺す、之を虐という」という台詞がありますが、今、ロシアでそれが起きています。戦い方の訓練も受けさせないで、学生まで戦場に行かせています。

言・・・人の言を聞いて、その人物の気持ち、由って立つ所まで理解しているかどうかを考えるとよいでしょう。ロシアの司令官たちは、国民の気持ちを理解せずに戦地に送り出していると感じます。

他人の話をよく聞いて取り入れて進めていくのが君子であるのに、プーチンは人の話を信用出来なくなったわけです。今回のウクライナ侵攻については、事前に自分の意見に反対の人間を全部排除した上で、自分の腹の中だけでウクライナ侵攻を決め、3日後に侵攻しました。プーチンの頭にあるのは、2014年のクリミア併合の勝利です。いわゆるハイブリッド戦争で、サイバー攻撃でウクライナの通信網を壊して、ウクライナには何も情報が入らないし発信も出来ない状態にしました。そして地上戦で一氣に攻めたから、ウクライナは訳が分からないうちにやられてしまった。それがプーチンの頭の中に濃厚にあったので、同じようにいけると踏んだのだらうと思います。

もう一つ、プーチンの頭の中には大ロシア帝国があって、ソ連邦が崩壊するのを目の当たりにしているから、自分が戻すのだという一点に集中しているわけです。似たような話は企業にもありますね。会社が倒産の危機にある場合、死神に魅入られると、自分が死んで保険金で返さなければと思えば、死ぬことしか考えられなくなって、他の話は全部排除

するようになる。プーチンの頭の中は、大ロシア帝国の復活に絞られているわけです。習近平も毛沢東を超えたいという妄想に憑りつかれてからは、他の話は全部排除してまっしぐらに進んでいます。

先ほど申し上げた講演会で中国人の先生がこんな発言をしていました。中国がとっている行動は正しい。なぜなら、ロシアは誘導されてウクライナを攻めている部分がある。日本人はメディアで一方的な話だけ聞かされて、ウクライナは全て善でロシアは全て悪であると刷り込まれているが、これはおかしいのではないか。尚且つ、ウクライナがどうなるかを見定めて中国が台湾を攻めるという論法があるが、それはとんでもないことだ。台湾は、中国のごく一部の小さな共和国という立場である。他国が余計なおせっかいをするのは内政干渉だと発言しているのは、その位置づけがまるで違うからだと明確に申し上げておきます・・・と、滔々と論じていました。

更に、こんな話もしていました。最近李克強首相が習近平と違う表現を始めた。政府の要人が発言する際には、「習近平様の御指導の下に・・・」という表現をしていたが、今、そうは言わない人物が出てきている。これは何か不穏な動きが出ているのではないかと諸外国は言い始めているが、偶々言い忘れただけで、そんなことはない・・・と言っていたが、腹の中は違っていると思って聞きました。そう言わざるを得ないような、プーチン・習近平の権力掌握構造になっていると捉えます。

ついでに申しますと、昨日の日経新聞の一面にこんな記事がありました。日本は、他国から攻撃を受けた時に敵機を迎え撃つ方角を指示する管制機「空飛ぶ司令塔」を4機持っていますが、中国がこれとそっくりの飛行機を一ヶ所に作って、そこに向かって攻撃をするような訓練をしているのではないかという内容でした。これは威嚇のためにしているのだろうという解説が付いていました。ただ言える事は、もう臨戦態勢だと感じます。

国家の話になりましたから、個人で考えましょう。

命・・・自分が生まれ落ちた理由は何か、一生涯で何を為すべきか、或る日突然天から降って来たという衝撃のもとに自分の運命を自覚する。こういう方は、天命を知ったと言ってよいと思います。

中村天風先生の話は前にも致しました。天風先生はキャリアアップ師のもとで修業し、悟りを得たような境地になっていた時、キャリアアップ師から「お前は地の声を聞いたが、まだ天の声は聞いていない」と言われます。それから必死になって修行し、ようやく天の声を聞くことが出来たわけです。キャリアアップ師から「もうお前に教えるものは何もない。帰ってよろしい」と言われます。死の病から見事に生還を果たし、日本に帰って来て心身統一道

を創始し広めました。

凡人からすると、なかなか天命まではいきません。ならば、自分がこの世に生まれた理由は何なのかを一生懸命突き詰めて考えて、どこかで<私はこれをやりたい。これをやろう>となれば素晴らしいですね。

礼・・・そうなる、そのために自分で自分の規則を作る必要があります。自分が向上するためのルールをこしらえて実行すべきであると思っています。私は自分の一生涯の予定表を作り、毎日すべき事の自分なりのルールを作っています。ちなみに今、自分に課しているルールは、

- ・朝起きたら1時間かけて身体の手入れをすること
- ・毎日、詩吟をすること
- ・毎日、日記をつけること、食事の量や塩分量を書くこと

これらを毎日実行し、記録しています。

言・・・私自身がやっていることは、人と会ったら視・観・察をすることです。少し仲良くなったなら、言行一致かどうかを見るようにしています。長くお付き合いしたいと思った場合は、四季だよりをお送りしています。四季だよりは、春夏秋冬に自分が撮った写真と感じた事を葉書にしてお送りしています。

### 恒例の質問

では、恒例の質問に入ります。さらっとお聞きします。

- 今年になって、良い日が続いていると思う方
- 今年になって、あまり嘘はついていないし、つかれてもいないと思う方
- 今年に入って、よく有難うと言ひ、よく有難うと言われていると思う方
- 今年身体の手入れをよくやっていると思う方
- 自分磨きもよくやっている方
- 昨晚寝る時、明日以降のことを<良かったな>と思って寝た方

### 令和4年を考える

お時間が少なくなりました。最後にテーマ「壬寅」について申し上げます。

人が世に出るチャンス・・・「壬寅」には、君子豹変・大人虎変という意味合いがあります。プーチンさんはそのポストにあるが、今、虎変しました。フィンランドの首相が「2ヶ月、3ヶ月前のロシアと、まるで今のロシアは変わりました」と言っていました。それを聞いて、プーチン虎変と捉えます。但し、悪い方の虎変です。今年国家のリーダーが虎変

をしたり、しなかったりで、虎変しなければいけないなりに後ろ指を指され、虎変したらしたで後ろ指を指される。そういう年回りになっていると感じます。

次の人を育てる・・・見ていると、次の方はどんどん育っています。台湾では、オードリー・ターンというデジタル担当大臣が「政府と国民が双方向的に議論できるようにしよう」と、インターネットなどで誰もが政治に参加しやすい環境に変えていこうとしています。それを実現した例として、16歳の少女が書き込んだ「プラスチック製のストローを変えるべき」という提案が、5000人を超える賛成を集めて、政策として法制化することになりました。

ですから各国で若い世代がどんどん育っています。ウクライナも同じです。日本はこれからです。私は、その“これから”を見たいと思って、会津若松市に行ってスマートシティを見て来ました。日本もやはり若い世代がどんどん出て来つつあると実感しました。

コロナとは共存・・・コロナとは共存の社会になって来ています。マスクはもう世界各国が外し始めています。日本もそれに近い方向に向かって、担当大臣が記者会見などを始めています。

どんどん世の中が変わります。我々もそういう時代に入ったのだという理解をお互いに持って、前向きに進んでまいりましょう。

以上で本日の講話は終了です。有難うございました。